

地域のエネルギーを考える

送配電や省エネ プラン 作成へ

中部地域のエネルギーのあり方について、立場や考え方を超えて議論する「中部エネルギー市民会議」が4日、名古屋市中で発足する。松原武久・元名古屋市長や中部電力の元社員、脱原発運動の市民団体代表など20人が呼びかけ人となった。

浜岡原子力発電所（静岡県御前崎市）の運転停止が決まった昨年5月頃、環境活動を支援する「地域の未来・支援センター」理事長の萩原喜之が

中部市民会議 あす発足

んと中部電力OBの今尾忠之さんが「地域のエネルギーについて地域で方向付けられるような議論の場が必要」と発案。松原氏と稲垣隆司・元愛知県副知事に呼びかけ人を依頼し、準備を進めてきた。呼びかけ人にはその後、清水哲太・トヨタ自動車顧問や山本一良・名古屋大副学長も加わった。

会議では、2年後をめどに、電力供給や送配電、省エネなど中部地域の目指すべきエネルギーのあり方と、そのため

の実行プランをまとめる。第1回の4日は、名古屋文化短期大学(名古屋市中区葵)で午後1時〜4時に開催。東京電力福島第一原発事故の事故調査・検証委員会の中間報告について、呼びかけ人が解説などを行ったうえで、来場者と意見交換する。

定員200人で、入場無料。事前申し込みが必要。3日午後5時までに、ホームページ (<http://chu-ene.net>) からか、所定の申込用紙によりファクス(052・339

5651)で申し込む。問い合わせは事務局(052・331・6141)。

原発の推進・反対両派を含めた市民が、立場を超えてエネルギー問題を議論する「中部エネルギー市民会議」が三月四日、名古屋市中で発足する。元名古屋市長の松原武久さん(右)や中部電力元社員、脱原発運動に取り組み大学生ら幅広い層が呼び掛け人となった。

中部エネ市民会議 名古屋で来月発足

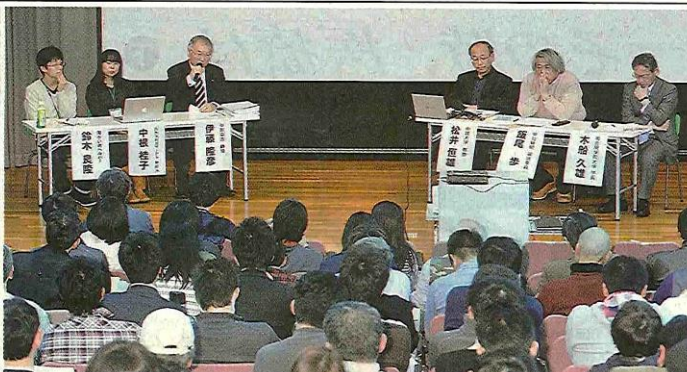
福島第一原発の事故後、市民団体関係者と中電元社員が、エネルギー問題で偏りなく議論できる場をつくらうと発案。松原さんを巻き込み、呼び掛け人を増やしてきた。「電力を消費してきた市民が自分たちで地域の将来を判断しなければ」と初会議への参加者を募

松原元市長ら呼び掛け

二十人の呼び掛け人 第一回の会議は三月には、元愛知県副知事 四日午後一時から、名古屋文化短期大学の清水哲太さんが名を連ねる。定期一方、大学生や高校生、乳児の母親らも。後を目標に目指すべき松原さんは「私は脱原発依存の立場だが、い

ろんな立場の人がじっくり熟議することが大切だ」と訴えている。問い合わせは、事務局 1) 6141へ。

(第3種郵便物認可)



「中部エネ市民会議」が初会合

「原発即止めて」 「国営で管理を」

東京電力福島第一原発の事故後、市民団体と中部電力OBが「違う立場の人が議論できる場を」と発案。松原さんらに呼び掛け人を依頼した。今後二年かけ中部地方のエネルギー政策の方向づけや行動計画の策定を目指す。

初回のこの日は、松原さんが「子どもたちに向けたエネルギー読

中電OBや識者、主婦ら 議論 立場超え

本を作れる会議にした」とあいさつ。政府の事故調査・検証委員会の中間報告を基に、福島の事故について意見を交わした。

中部電力の伊藤隆彦顧問は「長年、原子力に関わった身として残念」と謝罪する一方、「日本のエネルギーをどう賄うか。正しい情報に基づいて議論したい」と述べた。育児サークルに関わる中根桂子さんは「事故は自然も一遍になくしてしまふべくに止めたい」と述べた。核燃料工学が専門の松井恒雄中部大教授は「原発は国営にしない」とリスク管理が難しいのでは」と語った。

中日新聞の飯尾歩論説委員は「誰が良い、悪いの問題ではない。正しく知って選択するまでのプロセスを、今日から始めたい」と提起した。

元名古屋市長松原武久さんらへの呼び掛けで、原発への賛否の立場を超え、エネルギー政策の在り方を議論する「中部エネルギー市民会議」が4日、発足した。名古屋市中区の名古屋文化短大であった初会合に市民団体や経済界、主婦、学生など二百人が集まった。

多様な意見が交換された「中部エネルギー市民会議」4日、名古屋市中区の名古屋文化短大で

原発事故は、我々に何をもたらしたのか？

芽生え始めた議論の場

東海発 大震災1年を 考える

8

原発事故がもたらしたの
は、「分断」なのか。

「放射能をばらまくテロ
リスト」。昨年9月ごろ、
そんな手紙が届いた。定期
を使ったような筆跡を消し
た文字。差出人の名前はな
い。宛先は、名古屋市中区
の大須商店街で東北産品を
直販する「みちのく屋」。
仙台市出身の若林隆之さん
(31)が8月に開店した。
若林さんは手紙を読んで
悲しくなり、店をやめよう
かとも思った。でも何度か
読み返して疑問がわいた。

「この人は何で、こま
で暴力的に『正義』を振り
かざせるのだろう」
「放射能に汚染された」
とされるものと、「汚染さ
れざる」ものとの間の深い
溝。この分断を解くには、
どうしたらいいのか。

汚染の源である「原発」
と向かい合うしかない。震
災後、これまでとは違った
動きが芽吹いた。

市民会議発足

今月4日、地域のエネル
ギーのあり方を市民が話し
合う場として「中部エネル
ギー市民会議」が発足し、
名古屋市中で1回目の会議を
開いた。21人の呼びかけ人
には高校生から子育て中の
母親、政財界まで幅広い人
たちが個人として名を連ね
た。当日、会場を埋めた約



市民団体の萩原喜之さん(前列右端)と中部電力OBの
今尾忠之さん(同右から2人目)＝4日、名古屋市中東区

200人から、様々な声が
上がった。
「人間が原発を制御でき
ないのなら、なぜすくやめ
られないのか」
「なぜ止めてもらえない

のだ、と思っているうちは
止まらない」
原発を推進してきた側か
らも参加した。中部電力の
元副社長の伊藤隆彦氏は
「個人的な意見」と断りつ
つ、マイクを握った。「新
エネルギーに軸足を移すに
しても時間はかかる。日本
全体で考えるべきだ。電力

会社だけに任せる話ではな
い」
仕掛け人は、市民団体で
脱原発やりサイクル運動に
取り組む萩原喜之さん(59)
と、中部電力OBの今尾忠
之さん(68)だ。
2人は13年前、子ども向
けの環境教室を共催し、接
点があった。萩原さんは
「自然エネルギーの普及で
電気を選べるようになれば
原発も止められる。地域の
エネルギーと一緒に考えた
かった」と振り返るが、ほ
かの団体からは「電力会社
に取り込まれた」と批判さ
れた。10年余り、共同事業
は続いたが、脱原発は進ま
なかった。

そこに今回の原発事故。
4月ごろ、萩原さんは約10
年ぶりに今尾さんに連絡を
取った。原発畑を長く歩ん
だ今尾さんは「私は被告の
身」と自嘲気味に言った。
萩原さんは「それなら、電
気を使ってきた消費者も

だ」と応じた。
2人は、様々な人たちが
立場を超えてエネルギー問
題を話し合う場を作ろうと
意気投合した。名古屋市中
ごみ減量に取り組んだ松原
武久・前市長にも相談し、
1年がかりで呼びかけ人を
集めた。だが、実際にどれ
だけの人が当日集まるの
か、不安だった。

うれしい誤算

200人が集まったのは
うれしい誤算だった。しか
も半数以上は事前に申し込
みのない参加者だ。終盤、
こんな場面もあった。

高校生が「次世代のこと
を考えようというわりに
は、目先のお金の話にとら
われすぎて」と声を上
げると、すかさず「いや、
経済は大事。産業がダメに
なると就職先がなくなれば
困るのは若い世代だよ」と
大人から反論が上がった。
萩原さんは、それでいい
と思う。両方とも大事、答
えはないからだ。
萩原さんは「市民会議

は、人のつながりの築き直
しの場」とも、とらえてい
る。賛否の踏み絵を迫った
り、一方的に「こちらが
『正義』だ」と張り合っ
りするのではなく、自分た
ちの問題として責任を分か
ち合い、ともに考え抜く。
皮肉なことに、原発事故
がなければ、この200人
は集まらなかっただろう。
原発事故がもたらしたの
は、この「議論の場」だ。
萩原さんはそう思ってい
る。(兼田徳幸、加藤勇介)

＝終わり